



宝塚市立良元小学校 学校通信

良元通信

令和5年(2023)4月20日号

校長 狩野 洋光

離任式

4月13日、離任された先生方におこしいたゞき、ごあいさつしていただく会をもちました。



子どもたちに向けて、たくさんのメッセージをいただきましたので、紹介します

○たくさんの笑顔とあいさつを思い出しました。

○名前には願いがこめられています。学校を良くしてほしい、みんな元気だね。

○ひとつのことを頑張ることは大切。コロナも明けます。これからの良元小学校をつかってね。友だちを大切に、楽しい学校生活を送ってね。

○困ったときに、「どうしたん?」と声をかけてくれる、そんな学校が良元小学校です。

良元小学校の先生はみんなの味方です。頼りにしてくださいね。みんなで心をひとつにしていこう。

○5、6年生となったみんなのことが、高学年として安心して心強い。叱ったこともあったけど、みんなに感謝を伝えたい。



○あいさつだけでなく、勉強でわからない

ことがあったときは「こっちに来て」と、
自分の気持ちをいっぱい伝えてくれて

ありがとう。良元の子、大好き!

○子ども、先生、お家の人に感謝。

今、学んでいることを将来に役立ててください。

○みんな少しお兄さん、お姉さんになって、かっこよく頼もしくなった。今朝は良元小学校の夢を見ました。みんな元気に走り回っていましたよ。

○良元小学校のことを忘れたことはありません。良元の子ども、先生に伝えたい

「ありがとう!!」

○良元小学校の休み時間に出ていくスピードが速い。そして教室に戻るのも早い。

勉強も遊びも頑張ってください。



多様な立場、考え方に寄り添い、不安な気持ちを皆で乗り越えよう

～ マスクを外していきます ～

学校でのマスク着用については、先日本配りしました、宝塚市教育委員会のお便りの通りです。

- ① 児童、教職員ともに、教育活動にあたり、マスクの着用をもとめません
- ② 電車・バスを利用して登下校する場合は、マスクの着用をおすすめします
- ③ 学校から、マスクの着脱を強いることはありません
- ④ 咳エチケットを行うようハンカチ等を持たせてください

感染症対策として、これまでは、「マスクをつけること」を基本と考えるてきましたが、
これからは、「マスクを外すこと」を基本と考え、教育活動に取り組んでいきます。子

どもたちにも学級担任を通じて、「マスクを外したい人は、外してもいいんだよ」と声をかけているところです。運動場では、マスクを外して元気に活動する子どもの姿が見られます。しかし、登下校や校舎内では、マスクを着けたままの子どもがほとんどです。それは、教職員についても同じです。

学校では、マスク生活の子どもたちへの影響について教職員と話し合っています。相手の表情を読み取る力やコミュニケーション力への影響・口呼吸が多くなることによる鼻周りの筋肉の未発達（表情筋への影響）等、子どもたちへの影響を考えるとマスクを外すことは非常に大切であると認識しています。と同時に、マスク着用を求めたときと同様に、マスクを外すことを求めるにあたっては、多様な立場、考え方に寄り添いながら、慎重にすすめていくことが大切であると考えています。

そこで、学校では、5月8日のコロナ五類までを移行期間と考え、マスクを外す場面を少しずつ増やしていくこととしました。この対応についても賛否両論があろうかと思いますが、マスクの着脱が議論となり対立することを望む人はいないと信じております。学校の対応につきまして、ご理解いただきますよう宜しくお願いいたします。ご家庭におかれましてもマスクを外すことについて、お子さんと話し合う時間をお取りいただければと思います。

思えば、コロナ感染症は、社会の様々な対立を生みました。「マスク着ける VS 着けない」「ワクチン打つ VS 打たない」等々。また、初期のころは、感染したことが何か悪いことをしたかのように感じる方もいました。子どもたちが大きな声を出して遊ぶことも憚られるような社会の空気もありました。今回、「マスクを外す」にあたり、様々な理由からマスクを外せない人もいます。そういった方への思いやりを大切にしていきたいと考えています。

なぜ、マスクを外せないか、考えてみました。

- ・単に恥ずかしいだけなのかもしれない
- ・単に感染を怖がっているだけなのかもしれない
- ・自分に(家族に)基礎疾患があり、「もしも」を考えると外せないのかもしれない
- ・感染したことがあり、二度と感染したくないから外せないのかもしれない
- ・対人不安から外せないのかもしれない
- ・花粉症がひどいのかもしれない
- ・今、感染症に罹患しており(自分が、家族が)、外せないのかもしれない
- ・職務上、例えば医療に従事しており、まだまだ外せない状況にあるのかもしれない
- ・周りの人がマスクを着けているので、外しにくいのかもしれない(同調圧力)

社会は、まだまだ感染症への不安をぬぐいき
れていません。気持ちの部分、心理的な不安を
大人が乗り越え、「もう大丈夫だよ」のメッセー
ジを大人から子どもに発信していくことも大切
ではないかと考えています。

また、学年が上がるほどみられる傾向として
の「恥ずかしさ」に対しては、表情を見せあうこ
との意義、大切さについて、大人が教えるだけでなく、子どもたち自身が考える時間
をとることも必要ではないかと考えています。

感染症の状況によっては、再びマスクの着用をお願いすることも考えられますが、
多様な立場、考え方に寄り添い、不安な気持ちを皆で乗り越えていきましょう。

